

# 特徴ある大学教育支援プログラム（特色 GP）

－講義形式と実施形式授業との融合を目指して－

取組期間：平成 18～20 年度（3 年間）

取組名称：21 世紀型管理栄養士養成システムの構築－講義形式と実地形式授業との融合を目指して－

## 取組の概要

### 【取組の概要】

近年、動脈硬化性疾患や糖代謝異常、それに癌など、生活習慣の劣化に起因する疾患群が著増し、その防止・改善の任に堪える 21 世紀型管理栄養士の育成が強く求められている。本学部では 2003 年から臨床栄養教育強化プロジェクトを発足させ以下の取組を行っている。

①カリキュラム改革：全学部学生を対象に生活習慣が自身の健康状態に及ぼす影響を調べる。学生に自らの調査結果を評価判定させ、その改善策や実施方法などを学年に応じた内容で授業に組込む。②学内実習制度の新規導入：生活習慣病患者の生活ケアを実習教科に組み込み、栄養指導を含む生活習慣の改善を実体験させる。③臨地実習の再構築：教科内容と評価法の改善、施設間格差是正の改革案策定、格差是正講習会開催などを実施する。要は傷病者等の抱える問題点を正しく洞察できる資質と豊かな人間性を涵養し、修学成果が社会的要請に追いつけない乖離現象を解消することにある。

## 選定理由

※財団法人大学基準協会からの「審査結果について」から抜粋

この取組は、中村学園大学栄養科学部において、同学園の教育の目標とされる教員と学生間の深い人間的交流に支えられた教育を実践するため、2003 年度から臨床栄養強化プロジェクトとして、それまでの修学システムの反省に基づいて設定されています。カリキュラム改革、学内実習制度の新規導入、臨地実習の再構築を基軸にしており、方向設定はきわめて妥当なものと評価できます。本取組の有効性については、再構築後の臨地実習については 2006 年度から開始されるので、その成果に注目したいと思いますが、その他の点では、今日までの実績を見るかぎり、かなり顕著な教育効果を認めることができます。本システムの充実のために、長期的な視点でみて、適切な経費措置の確保に努められることを希望します。総体として、着実なプログラムとして設計され、実施されており、他大学の参考になるものとして評価されました。